

発行所：社会福祉法人横浜共生会
〒223-0056 横浜市港北区新吉田町6001-6
TEL 045(592)1011 FAX 045(592)0105
ホームページ
https://www.y-kyousei.or.jp/
編集発行人：村松紀美枝



共生

① 共生第28号

出会いを求め西区に &COCO開所

【開所の経緯】

新型コロナウイルス感染拡大は、地域活動ホームガッツ・びーと西にも大きな影響を及ぼしました。各作業部屋は密が避けられない状況。それでもレイアウトを工夫し、新たな作業室の確保を行うなどしましたが、新たな卒業生の受けとめは極めて困難な状況でした。

「行き場がないのなら、作るしかない」そんな思いで有志を募り、新規事業所立ち上げスタッフが動き出したのが令和2年の7月。職員、パートスタッフ、役職もバラバラな11名が週に1度集まり、話し合いが始まりました。

作るからには西区に作りたくて各方面に物件探しを行うも、横浜のど真ん中では、スペースの広さ、賃料の問題があり場所探しは難航。

そんな中、西区で共に汗を流してきた『NPO法人無限夢工房』から、「移転して空く跡地を、気心しれた横浜共生会に使ってもらいたい」とお声掛けをいただき、奇跡的に西区平沼の地で開所に向けて動き出すことができました。

【名前の由来】

新規事業所の名称は、みんなが愛着をもって呼べる名称を付けたいという

意見が上がり、スタッフの1人から「COCO（ここ）がいい」と意見が出ました。

ご利用者が指で一筆で書ける、個人の個性を大切にしたい、ここから始める、ここに居る、ご利用者とコーディネート（企業）をイメージして運営したい。そして、自分たちと他者をつなぐ「&」を付けて「&COCO」という名前が生まれました。



出会いを求めて地域にも



小学生に&COCOの説明中

【目指すのは地域との共生】

地域の中のような人との出会いの場を作るため、福祉の枠に収まらずに様々な人の話を伺いました。地域住民、当事者ご家族、アートスタジオスタッフ、コーヒーションショップ店員、作業所作りの大先輩、株式会社運営スタッフ

フ、特別支援学校の関係者等誰もが地域の一員として、情熱を持って耳を傾けて下さり、アドバイスや知識を惜しまず提供してくださりました。

そんな中、ご利用者が生き生きと生きている姿を一人でも多くの方に知ってもらいたいこそがご利用者のお仕事であるという考えに至り、貸しスペースと、だれでもパリスタができるカフェを始める準備に取り掛かりました。

まさに&COCOの『&』にある人の力を借りて、一緒に出会いを作っていく形となりました。

【ユニバーサルデザインとSDGs】

&COCOがカフェで使用するコーヒード豆は、フェアトレード。立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を支援する豆を使用しています。【①貧困をなくそう】

また、ご利用者のあるがままの姿をより多くの方に知ってもらうことで【⑩人や国の不平等をなくす】ことを目指します。

スイッチの導入で、手足がうまく動かせなくても、小さな動きで豆を挽き、パリスタのようにコーヒーを淹れられるように工夫をしました。



カフェ練習中の様子



地域の方の作品が並びます



ギャラリー風景



目指せだれでもバリスタ♪

環境面を変えることで、『できない』を『できる』に変え、自分がやったと思える経験を積み、その先にある、自分で決め、選び、失敗しても再び挑戦できる温かい社会をまずは地元の地域から作っていききたいと思っています。

今日はどんなことをしているか、是非、&COCOを覗きに来てください。

令和2年度 実践報告会開催

「法人のブランド構築」という目的のため、実践報告会という形を通して、福祉の仕事の魅力を発信していますが、令和2年度はプロジェクトチームを編成して準備し、コロナ感染拡大が収束しないため、2月に各施設をオンラインで結んで開催しました。

テーマは「共生会らしき人、地域の可能性を見る/拓く/」です。

以下は、発表テーマと所属と発表者名です。

1. 関わりから生まれた気持ちの変化
花みずき 佐藤 丈留
2. 私の仕事のやりがいについて
花みずき 塩沢 千夏
3. 人と関わる福祉の仕事
横浜らしい 遠藤みなみ
4. 仕事は楽しく
横浜らしい 保田 龍矢
5. 障害者生活体験事業の実践
ガッツ・びーと西 森 博宣
6. ケアプラザと地域団体との連携について
下田地域ケアプラザ 井上 駿

※実践報告会の内容は、法人ホームページ（事業紹介のページ）でご覧いただけます。

今後も実践報告会を通して、様々な方に日頃の活動を知っていただき、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

『ワクチン接種が始まりました』

丘の上診療所で、6月8日から法人内部向けのワクチン接種が始まりました。ご利用者と職員対象に始めますが、職員たちから「両親の接種券が届いても、集団接種会場や医療機関での予約が取れない」という声を聞き、急遽、職員の家族も対象にすることになりました。診療所の通常業務を続けながらの作業となるため、医師、看護師、医療事務等が、初めての業務の作業工程を確認するなどして対応しています。

入所系職員は若い人が多く、副反応のため一度に接種することが出来ず、接種が終了するまでには時間がかかりそうです。一日も早く、コロナが収束してほしいものです。



「ワクチン接種会場風景」



令和三年度事業計画・予算並びに 令和二年度事業報告・決算を議決

令和3年3月21・30日に令和3年度の事業計画・予算、6月12・27日に令和2年度の事業報告・決算が、それぞれ理事会並びに評議員会で審議され、全ての議案が承認されました。以下に、令和3年度の事業計画概要と令和2年度の決算諸表を紹介いたします。

法人本部事業計画

I 基本方針

1. 経営基盤の充実と法人機能強化の推進

社会福祉法人制度改革も、監査人等の助言をもとに基盤体制は安定してきましたが、新型コロナウイルスにより先行き不透明な中、福祉事業を取り巻く環境は厳しさを増しています。経営展望の抜本的な見直しを行い、どのような状況に置かれても経営を安定させる様々な経営戦略を、引き続き遂行していきます。

II

1. 会議関係

・評議員会 年2回開催予定（定時評議員会他）

・理事会 年5回開催予定

・監事会 年1回開催予定

2. 諸規定の改正

(1) 事業組織の拡大、法令改正等に伴う諸規定の改正

3. 役職員の資質向上と人材育成・確保

(1) 各種研修会への参加と内部研修の充実強化

(2) 第2回法人実践報告会の実施

(3) 職員の確保と研修制度の充実。人材育成制度（目標達成プラン）の実施と見直し

(4) 中央衛生委員会の開催。ストレ

等開催も引き続き推進します。

資金計画は、新型コロナウイルスの影響で不確定要素が多い中、コロナ前の状況に近い予算編成とした結果、法人全体では黒字予算となりました。今後の大規模修繕等に備え、施設整備積立金の計上も大規模施設を中心に予算計上しています。適正な人員配置の在り方等の対策も講じ、コスト削減にも取り組み、安定的経営を目指してまいります。

横浜らしい事業計画

- 4. 施設・設備の維持管理と安全確保（横浜らしい機器更新等、風水害も含めた災害対策）
- 5. 地域における公益的な取組の推進（自立生活に向けた体験室の活用等含む）
- 6. 「共生まつり」の実施（令和3年10月3日）・新型コロナウイルスのため中止。

ご利用者の重度化や高齢化が進み、医療的ケアの増加や介護度の高さは以前とは比べようもないほど進み、医療的ケアを重点的に行うことが出来る居住棟を設け、職員の動線や介助バランス等を踏まえた居室の再編成を行うため、全棟のご利用者的大幅な引越しを行いました。また、限られた職員数で介助が実施できるように、小舎グループ担当制から、「全棟ケア体制」に変更し、看護職や相談職を含めた管理職も居住棟勤務に入り支援を開始します。

令和3年度はこの大きな体制変更を軌道に乗せ、ご利用者と職員が少しでも笑顔でうるおいのある生活や役割を感じられる体制を目指します。

- 1. 人材確保と人材育成
- 2. 重度化・高齢化に対応
 - ・医療職が常駐する居住棟で、医療的ケア（①呼吸管理、②吸引、③経管栄養等）を習得。
- 3. 地域支援《短期入所、ミドルステイ》
 - ・受け入れ対応できる体制の立て直しを進めていく

花みずき事業計画

- 4. 日中活動（デイプログラム・デイサービス）
 - ・重度高齢の利用者にも対応した日中活動を検討し、活動量の確保に努める
- 5. 安定したサービスを提供するため
 - ・職員の育成及び安全な施設管理。
 - ・利用者にも職員にも安心なミスト機械浴槽設置
 - ・災害時の非常電源による医療機器、ナースコールシステムの為の自家発電機を導入
 - ・インカムを導入し、職員間のコミュニケーションの向上とレベルアップを図る。

入所施設に求められる「地域移行」という課題は、入居者が単に施設を出ることでないという考えに変わってきました。障害者支援施設の役割が見直され、入所施設だからこそできるサービス、役割が徐々に明確になっています。

真に施設の生活を必要とする方に対し安全・安心な生活、楽しく生きがいのある生活を提供できるよう努め、短期入所事業、生活介護事業、計画相談、横浜市二次相談支援事業などの事業を通じ、在宅生活を送る障害のある方やご家族にとって「拠り所となるような施設」づくりを目指します。

- 1 基本方針
- (1) 新型コロナウィルス対策
- (2) 入居者・通所者支援
- (3) 地域の中で生きる施設
- (4) 働く環境（やりがい・働きがい）

- 生きがいを持てる職場環境作り)
 (5) 家族会との連携
 (6) 生活介護事業所のバックアップ
 (木の花事業所、プリムラ496)
 2 事業の実施内容
 (1) 施設入所支援 (定員…50名)
 (2) 生活介護事業 (定員…60名)
 (3) 短期入所事業 (定員…10名)
 (4) 相談支援事業 (二次相談支援機関、計画相談)
 (5) 環境の整備 (経年劣化対応、C棟北側外壁の一部交換)。

地域生活支援センター海事業計画

新型コロナウイルス感染症の感染拡大という緊張の続く生活は、障害当事者やご家族、職員のストレスは計り知れないものになっていきます。連携強化に努め、在宅、グループホーム、施設で暮らす方々の人生が豊かになるように、様々な社会資源を駆使しながら、各事業担当職員が協働し取り組みます。

権利擁護として、安心安全な介助、事故の再発防止、虐待防止及び権利擁護等、支援に必要な研修を企画及び実施し、職員の意識・資質向上を図り、揭示物等を用いた啓発活動を継続します。また、人材育成として、高齢化・重度化に伴う心身状態の変化、医療的ケアの専門性が必要な重度化、発達障害、強度行動障害等の多岐にわたる障害特性について、必要な知識や技術を習得して支援に努めます。

- 1 各事業
 (1) 居宅介護事業 (居宅介護・重度訪問介護・行動援護・移動支援・研修事業)

- (2) 共同生活援助 (グループホーム) 事業 (17か所)
 (3) 生活介護事業 (ほっと・館、ほっと・館宇宙、ほっと・館花)
 (4) 基幹相談支援センター・指定特定相談支援事業・自立生活援助事業・(自立生活アシスタント事業 (海相談室)、後見的支援推進事業 (さぼーと・うみ) との連携)
 (5) 「新羽地域ケアプラザ・コミュニティハウス」との連携

地域活動ホーム事業計画

しんよこはま／どんとこい・みなみ／ガッツ・びーと西

地域福祉の拠点として障害のある方と地域を結び、共生社会の実現を目指します。地域生活支援拠点機能の面的整備を既存の社会資源を有機的につなぎ各地域全体で構築します。コロナ禍で希薄となった地域との関係性の再構築、ICTの活用や感染予防対策等コロナ禍で得たスキルや意識を採り入れ、支援を充実させます。

- (以下、各地活マニフェスト抜粋)
 1 しんよこはまマニフェスト

*新型コロナウイルスの感染予防対策を、継続的に万全を期して行ないつつ、地域ニーズに基づいたサービス提供を引き続き行なっていきます。
 *新たな「繋がり方」を考え、人と人の繋がりを一番に、社会的孤立を防ぎ、その人らしい暮らしを支えられる地域作りを目指します。

*港北区地域福祉保健計画「ひとつとプラン港北」の第4期が始まり、誰もが安心して暮らせる街づくりのため出来ることを地域と検討、協働し

ていきます。

- 2 どんとこい・みなみマニフェスト
 *個別支援計画の充実を図り、コロナ禍で通所が途切れた方へのアプローチを検討し、減少を余儀なくされたパンの出張販売等外出機会を再活性化させます。多職種連携でより質の高いサービスを追求します。
 *コロナ禍で中止とした「レインボーフェスタ」の再開に向けて、地域と協議します。「こどもダイニング」を再開させ、フードパントリー等、地域支援を充実させます。

- 3 ガッツ・びーと西マニフェスト

*年々増え続けるニーズに対して、横浜市西区という横浜の中心地で、障害のある方のできることで、役割を見出すための新規事業所を開設します。
 *西区地域福祉保健計画の中で誰もが暮らしやすいまち西区を目指します
 (「おでかけ3」の運行継続、小・中学校の見学・職業体験受入の継続、第3地区の部会・懇談会・祭りへの参画の継続など)。

木の花／プリムラ496生活介護事業計画

*コロナ禍で活動や行動が制限される中、「地域に根付いた事業所として、活動の充実や社会の一員として豊かな生活を営む」ことを目指し、障害の重症に関わらず活動(作業)を通して社会の一員として生きていく自信、実感を獲得することを目指します。

*職員研修・職員の専門性や障害理解の向上のために、法人内外の研修を

活用しスキルアップを行いご利用者に還元します。

新吉田／下田／樽町／新羽地域ケアプラザ事業計画

*法人内の4つのケアプラザの事業部門ごとに連絡会の開催や研修等を継続し、切磋琢磨して質を向上させ、地域福祉の牽引役として活動してまいります。
 *介護予防、認知症支援啓発、権利擁護等地域向けの事業や実践教室を重点的に実施します。

*新型コロナウイルスの影響により、減少傾向にあるデイサービスの利用者回復に努めます。
 *下田・樽町地域ケアプラザは、5年間の指定管理に入り、更に地域包括ケアシステムを推進します。

*Wi-Fi設備も円滑に使用できるよう職員もオンラインについて学び、利用サポートに努め、コミュニティハウスでは、ケアプラザと一体運営の良さを生かしてまいります。

スペースつなしま事業計画

*課題となっている障害児の計画相談にも力を入れ、ソーシャルワークを実践し、医療・教育等の専門職も含めた多職種連携によって社会福祉の向上を目指します。

*法人内職員の育成、横浜市等への研修講師派遣にも注力します。

令和2年度決算報告

事業活動計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		決 算
サービス活動増減の部	介護保険事業収益	335,437,880
	児童福祉事業収益	272,000
	障害福祉サービス等事業収益	2,985,920,539
	医療事業収益	15,513,299
	委託事業収益	212,259,909
	収益事業収益	24,210,819
	経常経費寄附金収益	768,066
	サービス活動収益計(1)	3,574,382,512
	人件費	2,632,810,382
	事業費	319,820,748
事務費	474,569,178	
減価償却費	117,854,153	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 76,821,907	
徴収不能額	0	
徴収不能引当金繰入	186,220	
サービス活動費用計(2)	3,468,418,774	
サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	105,963,738	
サービス活動外増減の部	受取利息配当金収益	44,716
	その他のサービス活動外収益	64,998,741
	サービス活動外収益計(4)	65,043,457
	支払利息	2,333,579
	その他のサービス活動外費用	50,279,016
サービス活動外費用計(5)	52,612,595	
サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)	12,430,862	
経常増減差額(7) = (3) + (6)	118,394,600	
特別増減の部	施設整備等補助金収益	12,875,841
	固定資産受贈額	2,266,935
	固定資産売却益	0
	その他の特別収益	241,832
	特別収益計(8)	15,384,608
	資産評価損	4,126,949
	固定資産売却損・処分損	31,605
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 1
	国庫補助金等特別積立金積立額	9,740,841
	特別費用計(9)	13,899,394
特別増減差額(10) = (8) - (9)	1,485,214	
当期活動増減差額(11) = (7) + (10)	119,879,814	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,859,461,885
	当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)	1,979,341,699
	基本金取崩額(14)	-
	その他の積立金取崩額(15)	-
	その他の積立金積立額(16)	59,600,000
次期繰越活動増減差額(17) = (13) + (14) + (15) - (16)	1,919,741,699	

財産目録

令和3年3月31日現在

(単位: 円)

資産・負債の内訳	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産合計	1,908,768,718
2. 固定資産合計	3,407,385,565
(1) 基本財産	2,735,243,153
(2) その他の固定資産	672,142,412
資産合計	5,316,154,283
II 負債の部	
1. 流動負債合計	427,594,591
2. 固定負債合計	455,412,173
負債合計	883,006,764
差し引き純資産	4,433,147,519

資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		決 算	
事業活動による収支	介護保険事業収入	335,437,880	
	児童福祉事業収入	272,000	
	障害福祉サービス等事業収入	2,985,920,539	
	医療事業収入	15,513,299	
	委託事業収入	212,259,909	
	収益事業収入	24,210,819	
	経常経費寄附金収入	768,066	
	受取利息配当金収入	44,716	
	その他の収入	64,998,741	
	事業活動収入計(1)	3,639,425,969	
事業活動による支出	人件費支出	2,618,463,972	
	事業費支出	319,820,748	
	事務費支出	474,548,413	
	支払利息支出	2,333,579	
	その他の支出	50,279,016	
	流動資産評価損等による資金減少額	8,900	
	事業活動支出計(2)	3,465,454,628	
	事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	173,971,341	
	施設整備等による収支	収入	
		施設整備等補助金収入	12,875,841
固定資産売却収入		242,420	
施設整備等収入計(4)		13,118,261	
支出			
設備資金借入金元金償還支出	12,435,209		
固定資産取得支出	17,139,164		
固定資産除却・廃棄支出	0		
ファイナンス・リース債務の返済支出	1,206,000		
施設整備等支出計(5)	30,780,373		
施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△ 17,662,112		
その他の活動による収支	収入		
	積立資産取崩収入	12,885,361	
	その他の活動による収入	44,490	
	その他の活動収入計(7)	12,929,851	
	支出		
積立資産支出	87,882,390		
その他の活動による支出	30,860		
その他の活動支出計(8)	87,913,250		
その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	△ 74,983,399		
予備費支出(10)	-		
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	81,325,830		
前期末支払資金残高(12)	1,518,839,297		
当期末支払資金残高(13) = (11) + (12)	1,600,165,127		

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位: 千円)

資産の部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	1,908,769	1,813,609	95,160
固定資産	3,407,386	3,440,706	△ 33,320
基本資産(建物)	2,735,243	2,826,835	△ 91,592
その他の固定資産	672,142	613,871	58,271
資産の部合計	5,316,154	5,254,315	61,839
負債の部			
	当年度末	前年度末	増 減
流動負債	427,594	414,742	12,852
固定負債	455,412	459,224	△ 3,812
負債の部合計	883,006	873,966	9,040
純資産の部			
	当年度末	前年度末	増 減
基本金	181,747	181,747	0
国庫補助金等特別積立金	2,059,300	2,126,381	△ 67,081
その他の積立金	272,358	212,758	59,600
次期繰越活動増減差額	1,919,741	1,859,462	60,279
純資産の部合計	4,433,147	4,380,348	52,799
負債及び純資産の部合計	5,316,154	5,254,315	61,839

障害施設 だよい



生活介護事業所

ほっと・館花／れもんcafé

ほっと・館花は、平成17年12月に開所し、青葉区しらとり台で喫茶店を16年営業しています。現在の登録メンバーさんは20名。『小さな地活』なんて言われることもあるほど、19歳から65歳の多種多様な個性をお持ちの皆さんが日々活動されています。

ほっと・館花では、店舗にて販売する手作り雑貨を作る作業と喫茶店『れもんcafé』運営を中心に行なっており、「社会の一員」として働くことの喜びや厳しさを経験しながら社会参加をしています。

喫茶れもんcaféでは、「挽きたてコーヒー」や「特製手作りミートソーススパゲティ」をはじめ、飲料やカレーライス、手作りチーズスコーン等をお楽しみ頂けます。また、手作りクッキーは、季節毎の催事に合わせた商品を日々みんなで開発し、店頭だけでなく注文等もお受



れもんcaféの人気メニューと手作り作品



ほっと・館花の外観

けしたり、青葉区役所販売「ふれあいマルシェ」や学校での出張販売等も精神的に行なっています。

れもんcaféのもう一つの売りである手作り雑貨は、個性豊かなメンバーさんが感性の赴くままに作った物で、まさに世界に一つしかない一点物。しかも超かわい！「映える」こと間違いなしです！

現在は新型コロナウイルス緊急事態宣言の影響で、れもんcaféを休業せざるを得ない状況ではありますが、宣言が解除された際には、落ち着いた雰囲気の内店で、コーヒーを楽しみながら、世の中の喧騒から解放されてみませんか？

生活介護事業所 木の花

生活介護事業所「木の花」は開所から十年を迎えました。平成23年の開所当初は単独の事業所でしたが翌年度より「木の花」が主たる事業所、「ほっと・館ぶらす・わん」が従たる事業所として合わせて定員四十名として現在に至ります。受注作業では、各取引会社のご理解の下、宅配寿司のお箸や醤油の袋詰め、納品、部品の袋詰め等行っています。今年度より病院からの受注も新たに受け始めました。創作作業では貼り絵作業もグレードアップし当初は色紙で行っていましたが、現在はチラシを活用し、より立体的な臨場感のある作品に仕上がっています。

作品は近隣歯科医院、ケアプラザ等にも展示させていただき、地域の方々にも楽しんでいただいています。また、紙漉き製品や利用者さんのオリジナルの絵を活用したTシャツやパーカー等幅広い製品の販売も行っております。

先日、養護学校の生徒さん、保護者の方が見学に来所され、お父様が愛用している『木の花Tシャツ』の作者に会いに来たとの話がありました。あいにくその

日は作者は休みで実際に会うことは出来ませんでした。社会と繋がりが持っている事業所であることが嬉しく思える一場面でした。

コロナ禍で販売等、社会との繋がりの機会が減少する中、少しでも色々な方に知ってもらう機会を増やしたいと考えております。貼り絵を飾るスペースがあればぜひお声がけいただき、木の花の作品を展示させていただけたらと思います。

※インスタグラムやっています。皆さんからのフォローお待ちしております。



カルチュールリップ 貼り絵



チラシ等の廃材で作る貼り紙



オンライン研修の可能性

毎年恒例の『生活創造空間にし研修』今年度はコロナ禍であっても、啓発の機会を絶やさぬようオンラインと会場のハイブリット方式で企画しました。年間テーマは『障害のある方の住まいを考える』。グループホーム／支援付き一人暮らし／入所施設などそれぞれの場所で生活されている障害当事者の実際の暮らしを、動

画共有や意見交換を通して知っていただける研修です。

研修直前に、神奈川県内に緊急事態宣言が発令され、一般参加の方の会場参加は中止となりました。そのためオンラインに不慣れな方は残念ながら参加が叶いませんでしたが、それでも、遠くはなんと長崎県から、あわせて約30組の方がオンライン上でつながり、研修の実施ができました。

オンラインは、コロナ禍で致し方なく選んだ方法でしたが、実施してみたら鱗、改めてオンライン研修の可能性を実感しました。今後、コロナが収束しても、『合理的配慮』や『ユニバーサルデザイン』といった視点から、大きな可能性のある方法となり得るからです。

受講者が一堂に会しての研修では、移動に困難を抱えている方、聴覚や視覚に障害のある方、集団の場が苦手な方たちにとつては、参加自体がそもそも難しかったかもしれませんが、オンラインであれば、そうした障害を、見える化、字幕化、情報保障することで、参加の際の障害をより少なくできる可能性がある。これは誰もがそうした機会に参加できるための大切な視点であったと気づきました。

令和3年度はあと3回実施予定で、次回は10月8日(金) 17:30〜開催予定です。生活創造空間にしのホームページ等で随時ご案内していきます。オンライン研修については、まだまだ発展途上ですがブラッシュアップしていきます。一方で、実際にお会いすること、お会いして意見交換することの意味や価値についても改めて感じて、それが気軽にできる社会情勢を期待しつつ皆様のご参加をお待ちしております。

高齢施設 だよい



新羽地域ケアプラザ

「新しいつながりかた」

3密を避けてと言われるようになって1年半が経ち、これまでは普通にできていたのにできなくなったことがたくさんあります。新羽地域ケアプラザは、年代やエリアを問わずに入力できる場所でしたが、利用制限を設けざるを得ず利用者もスタッフももどかしさを感じています。しかし、こういうときだからこそ始められたこともあります。新羽町にはお寺がたくさんあり、いくつかのお寺に協力を仰ぎ、境



大竹うたの会 in 善教寺

内で音楽セラピーの先生といっしょに歌ったり、駐車場をお借りしてラジオ体操を実施したり、近隣の方と顔を合わせるための散歩イベントの中で、御堂の見学をさせていただくなど、安全に事業を展開できました。

高齢者の生活の大きな変化の1つにスマートフォンを活用が見られます。自粛生活で家族や友達とのコミュニケーション手段はもとより、コロナワクチン接種の予約をする際の方法についてなど、地域の方々からたくさん質問を受けました。そこで、地域の方の力を借りてスマホ教室を開催しました。ケアプラザは多世代に交流の場を提供する役割を担っていますが、交流方法にも選択肢が広がっていることをこの1年半の間に感じています。

地域の魅力ある場所と住民、住民どうし、住民と地域活動といった具合に、つながりの選択肢をたくさん持つことが地域の活性化になると思っています。これからもそのお手伝いをしていきたいと思っています。



西方寺の中庭

下田地域ケアプラザ

「コロナ禍でも地域の交流を」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、従来ケアプラザを会場として歌や体操など、多くの人が集い合っていた講座やイベントが「密閉」「密集」「密接」の場となってしまうため相次いで中止となりました。ケアプラザ以外でも近所の通いの場として利用していた、日吉地区センターや下田小コミュニティースクール、下田町公会堂なども同様に利用ができなくなってしまうためか、足腰の筋力の低下・認知機能の低下など「フレイル」（虚弱）と呼ばれる状態の方の相談も増えていきました。

そこで地域包括支援センター・生活支援・地域交流の各職員で相談し「屋外で」「短時間に」「密にならず」にできる事がないかと考えた結果、屋外でラジオ体操のアイデアが出てきました。この体操を始めるにあたり、地域の公園愛護会や自治会、民生委員にも相談させていただきました。近くの下田町4丁目公園で毎週木曜日に開催することが決まりました（雨天は中止）。そして令和2年6月25日、参加者5名で「公園でラジオ体操」をスタートすることができました。

当初は参加者も少なく、公園の一



公園でラジオ体操

角で体操をしていましたが、徐々に口コミで広がり、今では参加者が30名程度に増えました。さらに、近隣の保育園の園児や通りがかりの方にも飛び込みで参加されるなど、地域の方の交流の場となっています。また、ラジオ体操を通して顔見知りになった方々が、一緒に別の事業に参加されるなど、新たなつながりも生まれています。

令和3年3月からは、新たに地下鉄グリーンライン日吉本町駅の駅前にも会場を増やし、2会場での開催となりました。コロナ禍の中でも、地域の住民同士が交流できる場づくりに向け、職員間で知恵を出し合い、協力しながら事業を企画してまいります。



「北東部方面多機能型拠点
(仮称)の整備に向けて」

昨年、横浜市が公募した「北東部方面多機能型拠点(仮称)」の整備に係る運営法人募集に際し、当法人も応募しました。

横浜市では、医療的ケアを必要とされる重症心身障害児者等とご家族の暮らしを支援するために、方面別に市内6ヶ所の多機能型拠点の整備を進めています。

横浜市の「横浜市障害者プラン(第3期)」の「将来にわたるあんしん施策」の一つに位置付けられていて、すでに、栄区、都筑区、瀬谷区に3館が設置されています。

今回、4館目を港北区に整備することになり、設置運営法人の募集があり、プレゼンテーションの結果、当法人が選定されました。

公募にあたっては、新型コロナウイルスの感染拡大が収束せず将来展望も不透明な中で、職員や役員との議論を繰り返しました。

元々、当法人では、医療的ケアのあるご利用者を多く受け入れる中で、ご家族等が抱える困難さを肌で感じ

てきたわけですが、正式に決まったことで、改めて、責任の重さを痛感しています。

これから、令和6年4月の開所に向けて、整備を進めていくこととなります。地域で医療的ケアのある方々の声にも耳を傾けて、より良い施設整備を進めてまいりたいと思います。

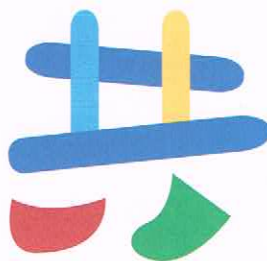
素敵な法人

ロゴマークが出来ました

法人ロゴマークを公募したところ、思いのこもった作品がたくさん集まりました。

その中から、審査会で圧倒的な票

を集めたのが、「しんよこはま地域活動ホーム」のご利用さんの応募作品です。地域と共に生きることを掲げる法人の理念を「共」という字に込めた作品です。横浜共生会を象徴する素敵なロゴマークと一緒に歩んでいきます。



法人ロゴマーク

ご寄附有難うございました

(令和2年7月~令和3年7月)

(株)ダイイチCSR委員会様(中区)	100,000円
塚田 暁人 様(神奈川区)	50,000円
加藤 省 様(都筑区)	1,000,000円
花みずき家族会 様(港北区)	2,500,000円
平山 浩篤 様(青葉区)	100,000円
正岡 幸伸 様(港南区)	110,000円
近藤 廣洋 様(港北区)	100,000円
横浜共生会後援会(港北区)	125,000円

他、以下の方々から新型コロナウイルスの感染予防物品をご寄贈いただきました。

第一生命保険(株)神奈川営業局 様(神奈川区)

株式会社MEGA SYSTEM 様(港北区)

この紙面を借りまして、心から感謝申し上げます。

共生まつりは中止となりました

当法人の各施設で、毎年、楽しい“おまつり”が開催されてきましたが、今年も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全施設ともやむなく中止または内輪向けに変更しています。

来年こそは、無事に開催できて皆さまにお目にかかれよう祈っております。

人事異動

(係長以上を報告します)

平成3年4月1日発令

花みずき

施設長 古瀬 智絵

(花みずき 副施設長)

課長 米倉 敬

(花みずき 係長)

新法人役員決定

HPに掲載しています

職員募集!

横浜共生会の理念を実現するために一緒に働く職員を募集中です。

採用に関する詳細は、法人HPでご確認いただけます。ご応募・ご紹介お待ちしております!

当法人では、規程に基づき、ご利用者・ご家族・地域の関係者等からの苦情を受け付け、解決を図っています。各事業所での受付・対応内容が、当法人のHPでご覧いただけます。

編集後記

新型コロナウイルスに世界中が振り回されたこの一年半余り、テレワークなどできない現場職員たちは、「持たない・拡大させない」を合言葉に、予防策を徹底させて日々働いています。

そんな厳しい環境の中で実施した様々な新しいことを、紙面から感じ取っていただけたら幸いです。(K)